

東京四極だより

【書：篠田直雄 東京四極会初代理事長・昭和3年卒 高商4回】

http://www.tokyoshiwasukai.jp/

発行者 野易生 野隆会
責任者 奥川四極
責任所 東京四極
行集行 103-0007
東京都中央区日本橋浜町3-45-3
浜町野島ビル5F 浦崎税理士事務所内
TEL/FAX : 03-5641-1542

平成二十二年 東京四極会 新年会開催!

2月6日(土) 正午から、恒例の東京四極会新年会を新日鐵代々木クラブで65名の会員と相良四極会会長、下田経済学部長を来賓に迎え賑やかに開催した。

今回の司会は佐藤勝峰事務局長が担当。終始、当意即妙の運営で新年会をリードした。奥川副理事長の開会宣言の後、姫野理事長が挨拶に立った。

率も厳しい局面にある。政治の動きでは、昨日5日、自民党の中に新たに創生日本というグループが旗揚げされたとの報道があった。これについては、後ほど衛藤参議院議員からお話があると思う。

最後は、役員以外で、東京四極会の活動に貢献したことをたたえている「たまには歩こう会」幹事の梅谷寛雄さん(昭和38年卒)、ゴルフ会幹事の財津昌宏さん(昭和40年卒)、東京四極会事務局の場所を提供いただいている税理士の浦崎貞治さん(昭和46年卒)に心より謝意を表したい。

このあと、来賓祝辞に移った。相良四極会会長は、学部創立90周年事業に向けた動き、大分トリニータのJ2降格、大分空港道路の無料開放、教育界における民間からの校長登用、大分産業界のトピックス、東洋経済社調査の全国大学のランキングでの大分大学の位置づけなどを紹介した。

高橋副理事長の発声で新年会は宴に移った。しばしの懇談のあと、衛藤参議院議員が「今の日本は、明治維新や戦後のスタートの時のような位置にある。自民党は衆参合わせて200名と小回りのきく政党になった。そろそろ次の時代に向けて力を発揮しなければならぬ。昨日、自民党の中に創生日本というグループが立ち上った。これまで難しい問題を早期に解決せずに横に置いてい

けるところはさすがだ。最後に、遠藤孝行事務局次長が立ち、関東一本締めで新年会は閉会となった。(奥川記)



姫野理事長挨拶

「本日は、昭和23年卒の渡辺龍雄さんから平成14年卒の黒木昭博さんまで54年間の幅をもった参加となった。世の中は、政治と金の問題、普天間基地の移設の混迷、相撲界のゴタゴタと賑やかな限りだ。経済面ではデフレがさらに進行し学生の就職内定

なった場合には音信がとれなくなる。経済学部と四極会本部には、年々の卒業生に対して、就職後、赴任先の地域支部への登録とOB会の重要性をまずお伝えいただきたい。

最後に、役員以外で、東京四極会の活動に貢献したことをたたえている「たまには歩こう会」幹事の梅谷寛雄さん(昭和38年卒)、ゴルフ会幹事の財津昌宏さん(昭和40年卒)、東京四極会事務局の場所を提供いただいている税理士の浦崎貞治さん(昭和46年卒)に心より謝意を表したい。

このあと、来賓祝辞に移った。相良四極会会長は、学部創立90周年事業に向けた動き、大分トリニータのJ2降格、大分空港道路の無料開放、教育界における民間からの校長登用、大分産業界のトピックス、東洋経済社調査の全国大学のランキングでの大分大学の位置づけなどを紹介した。

高橋副理事長の発声で新年会は宴に移った。しばしの懇談のあと、衛藤参議院議員が「今の日本は、明治維新や戦後のスタートの時のような位置にある。自民党は衆参合わせて200名と小回りのきく政党になった。そろそろ次の時代に向けて力を発揮しなければならぬ。昨日、自民党の中に創生日本というグループが立ち上った。これまで難しい問題を早期に解決せずに横に置いてい

会の終盤は、恒例の校歌、寮歌の斉唱だ。担当は下村晃事務局次長と急遽アシスト役としてタクトを振った梅谷さん。歌い出せば、皆さん朗々とそれぞれ2番まで歌いあ

参加会員 (卒業順敬称略)
渡辺龍雄、池辺和郎、荒木襄、寺田洋太郎、渡邊俊彦、安藤幸生、後藤浩、淵光太郎、國米秀信、用正靖彦、那波新平、蓼部源治、一万田道敏、梅谷寛雄、小倉章吾、小野二六、古賀晴夫、小迫邦彦、有松英俊、佐藤泰久、田熊勝二、梅崎弘明、大山博康、財津昌宏、友永英一、森楠生、永野基昭、藤澤恒生、松浦靖弘、加志田智久、小林康裕、宮本泰雄、吉迫利英、岩田修、高橋信行、竹上英文、姫野易之、道野良助、宮田豊、佐藤勝峰、衛藤晟一、浦崎貞治、木下勝仁、的場正道、遠藤孝行、松田俊秀、川口澄貴、勝又一俊、下村晃、伊賀勝秀、伊藤容一、和泉龍二、奥川隆生、鶴田幾雄、野村聡、米井晃彦、西坂憲郁、河邊清美、小林伸彦、佐藤浩太郎、内田孝一、大町拓也、千葉史、衛藤寛、坂本浩一、我那覇功

以上65名



高橋副理事長の発声



衛藤参議院議員の挨拶



会の終盤は、恒例の校歌、寮歌の斉唱だ。担当は下村晃事務局次長と急遽アシスト役としてタクトを振った梅谷さん。歌い出せば、皆さん朗々とそれぞれ2番まで歌いあ

静かなる夏―毎日が日曜日

(45回大18 田中孝行)

昨年未40年の会社生活にピリオドを打った。読書と散歩で明け暮れる、毎日が日曜日である。近所の公園を抜けて県境である境川の土手を約45分間できるだけ早足で歩くことにしている。公園の中を歩いていて気がついたのだが、盛夏の季節を迎えてもせみの声が然程うるさくないのである。

昨年11月、還暦同窓会が大分市で開催され卒業生の三分の一を超える参加者を数える盛況を呈したが、東京からの参加者も二桁を数え、参加できなかった同窓に大盛況裡に終始した会の状況を報告した。併せて6月の

東京四極会の総会で新役員に事務局長として選任された佐藤勝峰君を激励するための集いでもあった。何事にも冷ややかで、同窓会活動にも背を向けていた世代からの要職の選任で、参加者全員で佐藤事務局長を積極的にバックアップする事を固く誓い合い、閉会となった。

【同期会】(38回大11)

大分大会 IN 別府

去る平成21年10月21日、2年に一回続いている全国同期会が「別府パストラルホテル」で開催され、東京四極会会員10名を含む43名が参加した。

懇親会を経て2年後の大分開催を確認の後、カラオケ、懇談とあちこちで同期生交歓の花が咲いた。翌22日観光組は別府湾クルージング、竹瓦温泉裏路地散策の後、別府駅近くの懐石「二代屋」に

懇親会を経て2年後の大分開催を確認の後、カラオケ、懇談とあちこちで同期生交歓の花が咲いた。翌22日観光組は別府湾クルージング、竹瓦温泉裏路地散策の後、別府駅近くの懐石「二代屋」に

男児を朝寝坊にさせなかった、と思わず子供の頃の夏休みの一駒が脳裏に浮かんできた。更に奥の細道の「閑さや岩にしみ入る蝉の声」の句も舞台が山寺ではなく耶馬溪の羅漢寺であったなら、おそらく生まれてこなかったらう、と一人ニンマリした。

そんな盛夏の7月22日、大学18回生(昭和45年卒)13人が一同に会し、昔話に時間(トキ)を忘れた。

次回後期の昭和35年10月14日に始まる几帳面できれいな英作文ノット、担当教官、武藤先生はもちろ

たまには歩こう会

(平成22年新年会)

歩こう会では、年の初めに会員の親睦と年間計画のための意見交換を兼ねて新年会を開催している。今年は1月9日、赤坂月世界ビルの「月の市場」に15人の会員が集まった。

その後も和氣満ちとした交歓が続き、終わりに新理事長の姫野さんが「歩こう会のみならず、他の同好会や同期会を応援していきたい、東京四極会を活用して!」と呼び掛けたのち今年も例会に参加して健康を保とうと誓い合って散会した。

道となり、2kmほどを休みやすみ登る。やがて屋根つきの立派な駐車場があり、仲を抜けるとそこが子の権現だ。入口手前には樹齢一千年という杉の大木があり、黒門をくぐるると左右に仁王像が安置されていた。正式名称は「大鱗山雲洞院天竜寺」といって子の聖(西暦八百三十二年・子の

寺を自指して出発、伊豆ヶ岳方面へ向かってしばらく行くと、竹寺分岐に当たる。左へ分かれて明るい尾根道を進むと1kmほどで豆口峠の表示があり、避難小屋があった。山腹からみでまた1kmほど行くと竹寺に到着。ここは関東で唯一の神仏混淆の寺で、この日は12年に一度の本尊(午頭天王と八王子)御開帳の日であった。茅の輪をくぐって境内に入ると他に薬師如来堂など幾つかの建物が見え、竹林が見事な静かな山寺である。

晩秋の奥武蔵(紅葉の「子の権現・竹寺」)探訪

「たまには歩こう会」第45回例会



紅葉が山から里へと降りて来つつある晩秋の11月21日、今年最後の例会は紅葉狩りを兼ねて秩父の名刹を訪ねてのハイキングとなった。

池袋を早朝の7時半発の西武秩父線・快速に乗って9時に吾野駅に集合。吾野駅から川沿いに正丸方面へ進み、鉢山会社の横を抜けて車道から分かれた細い脇道を迎える。辺りの人家は秋の木々や

草花に彩られてのどかな佇まい。やがて、第一の目的地・東郷神社へ着いたが、ここは木曾御岳山の行者鴨下清八氏が御岳山神社をこの地に勧請したもので、氏が大の東郷元帥最期で有ったため、大正一四年には東郷元帥の銅像を建て除幕式を行ったほか、日露戦争時の記念品を奉納している境内のあちこちに見事な紅葉が見られた。

神社を後にやや後戻りして、子の権現への表参道へ入り芳延集落を抜けて車道を2kmほど行く。と赤い暖簾の民家風建物に着く。「浅見茶屋」といって地元では名の売れ手打ちうどんの茶屋である。ここで、小休止しお茶を御馳走になり、いよいよ山道にかかる。登り口に朱塗りの太鼓橋があり「降魔橋」という橋を渡るとやや急な山

ここからは秩父・奥武蔵の山々が一望で来て疲れを忘れる思いであった。天竜寺から竹寺方面へ五分ほどの開けた斜面で昼食休憩として思い思いに自参の弁当を開いた。下を見ようと畑の縁に小さな池があって、赤い金魚が泳いでいた。お腹を満たし、しばらくゆっくりにした後再び竹寺を目指して出発、伊豆ヶ岳方面へ向かってしばらく行くと、竹寺分岐に当たる。左へ分かれて明るい尾根道を進むと1kmほどで豆口峠の表示があり、避難小屋があった。山腹からみでまた1kmほど行くと竹寺に到着。ここは関東で唯一の神仏混淆の寺で、この日は12年に一度の本尊(午頭天王と八王子)御開帳の日であった。茅の輪をくぐって境内に入ると他に薬師如来堂など幾つかの建物が見え、竹林が見事な静かな山寺である。

境内からちょっと戻って杉・檜の植林帯を急速に下ってゆくと約30分ほどで車道に出た。飯能行き(小殿)で国際興業バスに乗りすべし「さわらびの湯」に着いた。名栗湖畔の天然温泉で地元の人や山帰りの登山客などで賑わっている。温泉でゆっくりに汗と疲れを落とし、バスと電車を乗り継ぎ、各々帰路に就いた。参加者(小野二六・和江、野田和文・ヒロ子、梅谷寛雄・章代、△姫野易之)

次回の案内を希望する方は東京四極会にメールをください。

全国同期会を東京で開催

(40回大13)



昭和40年に卒業した大13回生の全国同期会が、去る11月15、16日の両日、東京・港区のシーサイドホテル・芝弥生を中心に2年振りに開催された。

導で同期の中鶴忠宏さんの独奏を含め全8曲が演奏され、最後には大学校歌並びにふるさとを参加者全員で斉唱した。

引き続き第2部の懇親会に移り、先ず13名の物故者に黙祷を捧げた後、会員が昭和36年経済学部入学と時を同じくして初赴任し「経済地理」を3年間担当された恩師伊藤喜栄先生(現在愛知県一宮市在住)による挨拶が、講義の苦勞話やゼミナールの思い出など講義者ながらにユーモアたっぷりに行われた。

続いて四極会常務理事の石川公一さんの乾杯で宴会がスタート。懇親会では、東京四極会理事長姫野易之さんの挨拶や各地域の近況報告が行われた。宴はけなわとなった。経済学部の合唱部「コール・エコノミー」OBの小川秀夫さんのリードにより、逍遙歌、寮歌の斉唱のち、次回、2年後の全国同期会を福岡地区で開催することを決定、福岡地区の永野盛文さんの力強い引き受けの挨拶、中締めで第2部

昭と同期の中鶴忠宏さんのお開きとなった。翌16日は第3部として貸切バスによる「ロマンチック横浜」観光が行われ、海の見える丘公園、山手洋館、外人墓地等を散策後、横浜中華街で昼食を堪能した。その後中華街、山下公園を自由散策し、横浜港クルーズで海上からベイブリッジやみなとみらい地区の景観を楽しんだ。この観光では、随所で「かながわ検定」のライセンスを持つ有田知義さんの詳細かつ巧みな案内があり、通常の観光バスによる観光に花を添え、全員大満足の観光となった。横浜駅経由東京駅で次回の同期会での再会を約し、それぞれ各地に散会していった。

員の参加者(敬称略)有田知義、石橋泉三、今泉創、梅崎弘明、大山博康、小川秀夫、加治屋由倫朗、清田功、古賀英政、財津昌宏、秦聖五、立石正治、友永英一、中川鐵一、(中川一二三)、中鶴忠宏、奈須弘和、(奈須一枝)、西田俊昭、西村善七、秦秀樹、古庄征夫、松尾光夫、三浦義弘、森楠生、守谷一誠



【第12回東京四極会ゴルフコンペ】絶好のゴルフ日和に!! 千葉・市原京急カントリークラブで開催



昨年9月10日、第12回東京四極会ゴルフ会を千葉県市原市の市原京急カントリークラブで開催。姫野理事長以下10名が参加した当日は、例年なら残暑厳しい頃であるが、湿度25%、最高気温25度、微風とコースの状態も最高の、文句のつけようのないベストコンディションとなった。

春の御殿場・富士カントリークラブでのコンペに加え、東方面の会員の便宜を考え、千葉で開催するようになって三回目の大会である。今回も87歳の平山正さん(第9回)



私のボランティアは週

《第12回コンペ入賞者》
優勝 江藤浩一(38回) ネット71.2
準優勝 中川鐵一(40回) ネット73.2
第三位 財津昌宏(40回) ネット75.6
第五位 井上清(45回) ネット78
ラッキー賞 吉迫利英(43回) ネット79.4
下が住まれた築三百年の江戸時代の庄屋さんの茅葺の母屋を初め、春の枝垂桜や秋の紅葉、そして二百種余りの山野草が年々ローテーションでお客様をお迎えしている。

のホームコースでの開催。コース途中には平山さんの一〇〇ラウンド達成の記念樹が植えられており、未だ現役の平山さんに励まされながらのラウンド

ミニ・ボランティアを楽しんでいます。(40回大13 中川鐵一)

一(38回)財津昌宏(40回)、中川鐵一(40回)、守屋一誠(40回)、吉迫利英(43回)、姫野易之(44回)、井上清(45回)、野村聡(52回)、中川一二三(同伴家族)

■新刊書紹介

三井商社マン世界奮戦記
「日比欧 友愛の 架け橋」
著者 那波新平 (37回大10) 武田出版

「何かが変わらなければ世界統一国家は生まれえない」。著者の持論である。30年間の三井物産時代、世界各地に赴任しながら培われた世界平和への思いは退職後もめらめらと燃え続ける。

日本を飛び出しフィリピンに住み着き、国家事業に携わる7年間の実体験ドラマは波乱万丈、読者の胸を打つ。何故貧し

■新刊書紹介

「世界一周放浪の旅 WH編」
著者 丸尾克弘 (第72回大45) 風詠社



この作品は、前作『世界一周放浪の旅 アジア編』の続編。

『アジア編』において私は世界一周を目指し、中国から西へと向かった。しかし、途中アクシデントもあり、残念ながらトルコまでしか行くことができず、帰国することになった。帰国後、

語学校へと通う。そして、そのニュージールランドから再び始まった世界一周への挑戦。ニュージールランドでのワーキングホリ

74歳マラソン完走記

(33回大6 太田 守)

昨年11月の第四日曜日、つくば市は気温摂氏6度小雨のち曇り。年に一度の健康診断にしているブルマラン出場の日だった。

雨天は初体験、ちゃんと走れるのか、完走できるだろうか不安が広がる。一方では一ヶ月前の練習では43キロを支撑なく走ってきたのだ。これまで13年間に13回すべて完走、途中棄権は一度もないと自分に言い聞かせながら足を動かす。と、ともかく10キロを通過。1キロ5分台で来て順調。

11キロあたりで、これまで経験したことのない足の痛みが走る。声にこそ出さないもの、大腿から脛がめっちゃ痛い。「こりゃ棄権かな」の思いがよぎる。ピョンと一足歩道に上れば万事終了なのだ。動かなくなる寸前にピョンすればと一口足で食い下がること

一年。私は無事大学を卒業したものの、就職までは決めることができなかった。目的を見失い、しばらく自堕落な生活を送るようになってしまった。しかし、1998年7月、今度はニュージールランドへと旅立った。前回、アジアを旅した時に感じた自分の英語力不足。その克服が第一の目的である。ニュージールランドではワーキングホリデー生活。オークランドでは4ヶ月間、安宿に住んで英

料になる70歳(当時)までに体をこわされる先輩が多い。どうかお大事に。「こわされてなるものか!」と思ったものの生来の運動音痴でスポーツには無縁。たまたま社内報の「5キロ走れる人ならフルマラソン可」の記事に押されるように毎週一回のジョギングを開始、少しずつ距離が延びた次第。これまで続いているのは健康第一につき記録を気にせず、他人とは比較せず、自分本位制を貫いているからだろうか。

移動連絡のお願い

一、移動連絡
①転居・転勤等で住所を変更される場合、東京四極会事務局に左記事項を連絡願います。
・氏名・卒業年次・転居先住所・転居先電話・その他
◎連絡方法
・ E-mail: info@tokyoshimas ukai.jp
・ Fax: 03-5641-1542
・ ハガキ: 〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-4-5-3 浜町野島ビル5F 浦崎税理士事務所内

二、四極会支部一覧
東京、名古屋、関西、岡山、鳥取島根、広島、山口防府、宇部、下関、高松、高知、松山、福岡、北九州、筑豊、久留米、大牟田、佐賀、長崎、佐世保、熊本、熊本城南、宮崎、延岡、都城、鹿児島、沖縄、韓国、大分、別府、中津豊前、速見杵築東、宇佐高田、日田、玖珠、豊肥、臼杵、津久見、佐伯、大分県庁、大分市役所、大分銀行、豊和銀行、大分合同新聞社

祝賀行事を平成24年7月に実施されることが決定され、これに伴い、実行委員会による準備がスタートしています。今後更に細部が明らかになれば、本日より順次お知らせいたしますのでご支援をお願いします。

謹んでお悔やみ
申し上げます
(敬称略)

清水要平(12回)
平成21年4月27日
島津宗成(16回)
平成21年6月17日
福岡忠治(38回)
平成21年8月14日
薦野宏(26回)
平成21年12月2日

平成22年
今後の予定
◆第46回
たまには歩こう会
4月5日(月)
5日(火)
修善寺ハイック
◆春の懇親ゴルフ
4月14日(水)
富士カントリークラブ
◆平成22年度理事会
6月5日(土)11時
新日鐵代々木倶楽部
◆平成22年度定時総会
6月5日(土)12時
新日鐵代々木倶楽部
◆平成22年度若手会員の集い
8月2日(月)
ニュー・トーキョー
第一田町ビル店



◆姫野体制による初めての東京四極だよりを発行しました。紙面の制約があり、寄稿いただいた原稿を事務局で一部編集しました。お詫びすることにもご了解をお願いいたします。
◇姫野理事長からの「各学年の同期会開催」に関するお願いと連絡です。東京四極会は2月(新年会)と6月(総会)の年2回、皆さんが集まっていたいただいておりますが、同時に、同窓会の基礎は学年それぞれ毎の同期会にあります。懇談会のほか、ゴルフ会や全国会も開いている学年があります。このように各学年の同期会がより活発に開催されるよう、事務局は支援策として、幹事さんが費やす通信費を支援することにいたします。なお、同期会記事と写真を東京四極だよりに掲載いただければ更に幸いです。活発な学年同期会をお願いします。通信費請求先は、上記の移動連絡と同様の東京四極会事務局まで、pmailもしくはファックスでお願います。

事務局からの連絡

祝賀行事を平成24年7月に実施されることが決定され、これに伴い、実行委員会による準備がスタートしています。今後更に細部が明らかになれば、本日より順次お知らせいたしますのでご支援をお願いします。